



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある

生きがいつくり生涯学習促進事業



恵庭市会場



留萌市会場



豊富町会場



大成町会場

目次

- 道民カレッジ事務局からのお知らせ…………… 2
- 道民カレッジの「ほっかいどう学」について… 2～3
- 後期連携講座一覧(ガイドブック)について… 4
- 「大学放送講座」について…………… 4
- 「大学放送講座」スクーリングの日程について… 4
- 生涯学習実践記録と研究論文募集のお知らせ… 4
- 視聴覚センターからのお知らせ…………… 5
- 「生きがいつくり生涯学習促進事業」の実施状況… 5
- 士幌町の生涯学習…………… 6
- 新会員紹介…………… 6
- 編集後記…………… 6

道民カレッジ事務局からのお知らせ

◎道民カレッジの『ほっかいどう学』について

平成十五年九月、北海道生涯学習審議会は、「生涯学習社会の実現に向けた今後の推進方策について」の答申の中で、「道民カレッジにおける『ほっかいどう学』の提供」について提言をされました。

道民カレッジ事業も今年で四年目を迎え、「学習機会の拡充」から「人材育成プログラムの開発」へとシフトし、新たな事業展開を通して「道民カレッジ」の更なる充実・発展に期待が寄せられています。

そのような中で、今年五月に開催されました道民カレッジ運営委員会（町井輝久会長）で、「道民カレッジにおける『ほっかいどう学』の新たな構築と体系化」に向け、具体的な方向性や取組みについての検討を、「評価・活用検討部会」（木村純部会長）に依頼しました。

このことを受けて、評価・活用検討部会では、五月から八月にかけて計四回の部会を開催し、「ほっかいどう学について」の協議を重ね、八月二十五日をもって、ほっかいどう学の定義をはじめその方向性等についての部会案をまとめ、八月三十一日の運営委員会に報告し、決定したところであります。

今後は、この運営委員会で決定した『ほっかいどう学について』を指針としながら、平成十七年度の事業

展開に向け、事務局をはじめ関係機関等で具体的な作業に入ります。その概要についてを紹介します。

一、「ほっかいどう学」の定義

ほっかいどう学は、道民自身が北海道（あるいは道内のそれぞれの地域）について、現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考える協働の学びである。

この学習によって、道民としてのアイデンティティを確立し、主体的に学ぶことによって培われた知識と能力を生かして北海道づくり・地域づくりに参加する学習である。

二、目的と意義

① 道民自身が北海道（あるいは自分の生活している地域）の現状、歴史について学習し、それをもとに北海道を創造する主体となる学習である。

② 学んだことを生かして地域づくりに自らから参加していくことに結びつく学習であり、単なる「ものしり」を育てるものではなく、地域づくりの実践方法の学習へと発展する、これからの北海道づくりに不可欠の学習である。そのためには、北海道を知るための学習講座に加えて地域づくりの実践方法についての学習プログラムの開発が求められる。

③ 行政機関や教育機関だけでなく、

NPPOや企業も参画する北海道を創造する協働の学びである。

④ 従来行政依存が強いとも指摘されてきた道民気質を改める契機ともなる学習である。

⑤ 大学放送講座や道立生涯学習推進センターの研修講座など、道民をはじめ学習の支援に当たる関係職員の養成も含む学習機会の改革・充実が求められる。

三、体系化

1 学問としての「ほっかいどう学」
（科学としての「ほっかいどう学」）
北海道地域を対象とする既存の学問の分野における成果をもとに、それらを地域研究として総合化し、より深めていこうとするものであり、「ホッカイドロジー」としての体系化を目指すものである。

「道民カレッジ」としては、高等教育機関や関係学会の道民への公開講座等の開催やそれらと市町村との連携の取組を支援し、連携講座や大学放送講座への参画を求める。学習機会の情報を道民に提供して、道民の学習が、科学としての「ほっかいどう学」の発展を基礎にすすむという体制づくりを援助し、学問創造のプロセスに広く道民が関われるようにする。

2 実践としての「ほっかいどう学」

（運動としての「ほっかいどう学」）

① 北海道についての多面的な知識の獲得

② 北海道民としてのアイデンティティの確立

③ 学習に主体的に取り組むことによって得られた知識や技術を地域づくりに生かす

この三本の柱を目標に取り組まれるものであり、「運動としてのほっかいどう学」と呼ぶことができる。この学習をつうじて「北海道スタンダード」を確立する学習ともいえるものである。

このような内容をもつ学習講座を積極的に道民カレッジの連携講座として位置づけるとともに、プログラム開発を奨励する。

3 道民と高等教育機関や関係学会との協働の学習であるとともに、道民と行政との協働の学習である。高等教育機関や関係学会が提供する学習についての情報の提供、プログラム開発における連携を追求する。

4 道民の学習の場に、研究者や行政職員が積極的に参加し、ともに学習する場となることが期待される。道民と共に学習することによって行政も変わり、道民との新しいパートナーシップが生まれる。行政職員等を対象とする研修機会への道民の参加を可能にするとともに、情報提供を行い、行政の領域を越えた連絡・調整組織を確立する。道や市町村が主催する学習機会を連携講座に位置づけていくように、内容の充実や学習方法の改善等を支援する。

5 学習機会の提供については、高等教育機関などの他に、NPOや企業等が広く関わる。例えば、千歳学出前講座等各市町村の取り組みにみられるように、「ほっかいどう学」の学習機会の提供は、行政や高等教育機関のみならず、NPOや企業も関わり、これらが主催・実施する学習機会を道民に幅広く開くものである。

四、学習の課題及び領域

- 1 北海道生涯学習審議会平成十五年度答申では、「ほっかいどう学」の領域あるいは分野を以下のように述べている。道民カレッジにおいては、「ほっかいどう学」の学びを重要な柱として定着させるために、今後は、領域・分野にもとづくコース区分を行っていく必要がある。
- ① 本道の歴史や文化、自然、産業構造に基づく「ほっかいどう学」
- ・自然との共生のための自然保護、環境問題学習
- ・雪や寒さの克服と生活文化の創造 (利雪・親雪)
- ・アイヌ文化の理解とその振興
- ・北方圏諸国との国際交流、異文化理解
- ・農林水産業を基幹産業とする関連産業の発展
- ・人材養成・産学官の連携による知的産業の集積と人材養成
- ② 本道の生涯学習施策の独自性に基づく「ほっかいどう学」
- ・NPOとの協働による地域づくり

・道民カレッジを通じた産学官のネットワークによるひとづくり

2 例えば、道・道教委及び関係機関等の実施している学習機会をもとにキーワードでの区分を試みると、次のような区分が可能である。

① 北海道の総合的施策に関わるもの (道州制、市町村合併、少子化・高齢化など)

② 北海道の文化と歴史に関わるもの (博物館・美術館のセミナー、アイヌ民族の歴史と文化など)

③ 北海道の自然・環境に関わるもの (自然保護、グリーンツーリズム、森づくり・森林サポーター、景観づくり、自然体験など)

④ 北海道の産業に関わるもの (産業の活性化、起業、産業クラスター、農林水産業の発展、バイオテクノロジーの開発と産業化、観光・アウトドア事業、新エネルギー、IT産業の振興など)

⑤ 北海道の生活に関わるもの (スローライフ、スローフード、地産地消、生きがい農業、アウトドアスポーツ、移住など)

⑥ 北海道の芸術、スポーツに関わるもの (よさこいソーラン、冬のスポーツ、雪まつり等の地域イベントなど)

⑦ 北海道の地域づくりの方法に関わるもの (道民と行政の協働、産学官連携、男女平等参画、ボランティア・NPOなど)

このような領域区分は、道民カ

レッジが、ほっかいどう学を柱にして運営するために不可欠である。例えば「ほっかいどう学」博士を道民カレッジの学位として認定するためには、従来の学習の累積に加えて①⑦の各領域について必ず学習することを求めるなどが考えられる。

五、方法

- 1 道民自身が北海道づくりの主体として学習するのになさわしい方法を開発し、参加型の学習を重視する。企画・実施に道民自身が関わることにより、創意が発揮され、楽しさが生み出される。
- 2 市町村等を取り組まれている地域学との連携を図る。
- 3 地域住民の学習活動のリーダー及び行政職員等の養成・能力向上を図る。そのためには、研修プログラムを充実させ、学習方法についてもリーダーや支援者の専門性を高めるとともに、道民自身が企画・運営に参加する学習プログラムの開発を行う。

六、具体的な取り組み方

- 1 大学放送講座を充実させ、「ほっかいどう学」としての体系的を強める。そのためには、もともと方式からもつと内容の統一性・体系的を強める。
- 2 今まで様々に取り組んでいる北海道教育委員会等の主催事業を「ほっかいどう学」という立場から再編成するなど、主催講座の拡充を図る。
- 3 大学放送講座のスクーリングを

充実させ、「ほっかいどう学出前講座」を実施する。実施を希望する市町村の要望にもとづき、学習者の参加も図りながら、その企画・実施を市町村(教育委員会等)と道民カレッジが共同で取り組む。

- 4 教育研究機関や市町村、NPO、企業などから講座についてのプロジェクト方式の事業を公募し、優れた事業への顕彰等を行う。その成果を広く道民に知らせ、連携講座の充実を積極的に図る。学習機会の開設にあたっては、とくに地方での開催に力点を置く。
- 5 地域づくりの方法を重視したりリーダー養成プログラムを開発し、実施する。その取り組みには、道民カレッジ学位取得者に参加を呼びかけることも考えられる。
- 6 「ほっかいどう学」を柱に道民カレッジ事務局の役割が今以上に求められる。道民カレッジ事務局による講座の企画・実施をすすめるためには、事務局のコーディネートネットワーク機能を高める必要がある。



大学放送講座	放送日時・テーマ・講師名
第1回	10月 2日(土) 『脳卒中の予防とリハビリテーション』 札幌医科大学 吉尾 雅春 教授
第2回	10月 9日(土) 『市民活動で多様な社会生活を』 札幌大学 佐藤 郁夫 教授
第3回	10月16日(土) 『もうひとつの北海道文学』 北海道教育大学 小林 真二 助教授
第4回	10月23日(土) 『教育におけるeラーニングの活用』 北海道情報大学 藤井 敏史 助教授
第5回	10月30日(土) 『農・水産業の新展開を目指して -ITの活用を探る-』 北海道東海大学 上瀧 貫 教授
第6回	11月 6日(土) 『健康の極意』 北海道医療大学 堀田 清 助教授

◎『大学放送講座』ユニオン
【テーマ】
・北海道の人づくり、地域づくり
【放送日程】
・十月二日～十一月六日毎週土曜日
午前五時～五時三〇分(六回)
《HBCテレビで放映》

◎後期連携講座一覧(ガイドブックについて)
■前期より大幅アップ
①連携講座参加団体
【市 町 村】三五団体
【高等 教育 機関】六一団体
【各種団体・民間教育事業者・企業等】一五団体
【その他の関係機関】一七団体
合計 一二八団体
②コース別連携講座数
・ほっかいどう学コース 六〇
・能力開発コース 六三
・環境生活コース 七一
・健康・スポーツコース 六二
・教養コース 二一五
合計 四七一講座

開催地	実施日	場 所	担当講師	定員	申 込 み 先
函 館 市	11月 6日(土) 13:30~15:30	函館市亀田福祉センター	札幌大学 佐藤 郁夫 教授	50名	函館市教育委員会 TEL 0138-21-3445
天 塩 町	11月 9日(火) 19:00~21:00	天塩町社会福祉会館	北海道東海大学 上瀧 貫 教授	150名	天塩町教育委員会 TEL 01632-2-1026
大 滝 村	11月15日(月) 19:00~21:00	大滝村基幹集落センター	北海道教育大学 小林 真二 助教授	20~30名	大滝村教育委員会 TEL 0142-68-6111
白 糠 町	11月24日(水) 10:00~12:00	白糠町社会福祉センター	札幌医科大学 吉尾 雅春 教授	100名	白糠町教育委員会 TEL 01547-2-2287
砂 川 市	11月12日(金) 18:00~20:00	砂川市公民館	北海道情報大学 藤井 敏史 助教授	30名程度	砂川市教育委員会 TEL 0125-54-2121 (内線381)
南 幌 町	11月27日(土) 10:00~12:00	ふるさと物産館(ビューロー)	北海道東海大学 上瀧 貫 教授	50名	南幌町教育委員会 TEL 011-378-2121 (内線271)
上富良野町	12月 3日(金) 10:00~12:00	上富良野町保健福祉総合センター	北海道医療大学 堀田 清 助教授	200名	上富良野町教育委員会 TEL 0167-45-5511
北 檜 山 町	12月14日(火) 9:30~11:30	北檜山町農村環境改善センター	札幌医科大学 吉尾 雅春 教授	150名	北檜山町教育委員会 TEL 01378-4-5111 (内線353)
北 広 島 市	1月19日(木) 18:30~20:30	北広島市芸術文化ホール活動室	北海道医療大学 堀田 清 助教授	50名程度	北広島市教育委員会 TEL 011-372-3311 (内線895)
帯 広 市	1月28日(金) 19:00~21:00	とかちプラザ講習室402	札幌大学 佐藤 郁夫 教授	50名	帯広市教育委員会 TEL 0155-22-7915
札 幌 市	1月17日(月) 13:00~15:00	かでの2・7 4階会議室	北海道情報大学 藤井 敏史 助教授	200名	(財)北海道生涯学習協会学習振興課 TEL 011-231-4111 (内線36-343)
札 幌 市	2月 7日(月) 13:00~15:00	かでの2・7 4階会議室	北海道教育大学 小林 真二 助教授	200名	(財)北海道生涯学習協会学習振興課 TEL 011-231-4111 (内線36-343)

◎『大学放送講座』ユニオン
の日程について(参加無料)
◎「大学放送講座」スクーリング
の日程について(参加無料)
◎価格 六〇〇円(税込み)
◎送料 二四〇円
(申込みは道民カレッジ事務局へ)

**生涯学習実践記録と
研究論文募集のお知らせ**

平成十六年度の生涯学習実践記録
と研究論文を募集します。
昭和五十一年にスタートしました
本事業も二十九回目を迎えます。
多くの皆様の応募をお待ちしてい
ます。

◎趣 旨

急速に変化する現代社会の中で健
康で充実した生活を送るためには、
人々が多様な形で学び合うことが望
まれます。
個人やグループで活動をしている
方々や地域、学校、施設、団体、企
業等で活動している方々の実践、研
究、未来への展望・提言について広
く募集します。

◎テ ィ マ

☆わたしの生涯学習
(社会参加、ボランティア、リカ
レント、など)
☆わがまちの生涯学習
(市町村・学校・民間・地域にお
ける取組など)

☆これからの生涯学習

(あなたの夢やビジョン、新しい
時代への提言、ITを活用した
取組、国際的な活動など)

◎応募の方法

★原 稿
四〇〇〇字(四〇〇〇字×一〇枚)程度
(原稿は返却しません)
表紙に郵便番号・住所・氏名・
年齢・性別・職業・電話番号を明
記してください。

★送 り 先

財団法人北海道生涯学習協会
〒〇六〇—〇〇〇二
札幌市中央区北二条西七丁目
かでの2・7 九階

★募集期間・締め切り

平成十六年十二月一日(水)
平成十七年一月二十日(木)

◎選考と発表

・北海道大学教授高倉嗣昌氏を委
員長とする五名の審査委員会で厳正
なる審査を行い、最優秀一編、優秀
数編を三月中旬に決定、本人に通知
します。
・入賞者には賞状、副賞を贈呈します。
・入賞者の発表は当協会の広報誌
「ほっかいどう生涯学習」と各新聞
紙上などを通じて行い、最優秀1編
は広報誌「ほっかいどう生涯学習」
と「北海道生涯学習協会のホームペ
ージ」に全文を掲載します。

視聴覚センターからのお知らせ

インターネットからも教材利用の申込みできます！へ教材予約はこちらへ
TEL 011-231-4111
(36-345)

ホームページ「生涯学習ほっかいどい」
<http://manabi.pref.hokkaido.jp/>

☆ 視聴覚センター教材貸出室では、学校の授業や様々な研修機会等にご利用いただける16ミリフィルム・ビデオ・DVD・CDなどを現在、約4,500本程収蔵しています。

人間が得る情報の80%が視覚聴覚からであると言われており、学習内容を深化させる視聴覚教材の活用によって、大きな学習効果をあげることが期待できるでしょう。

親子そろって視聴し、家庭でのコミュニケーションを大いに深めたり、子どもの学習意欲を引き出す学校での授業づくり、サークル・グループの仲間同士の楽しい学習活動など生涯学習の充実に、当センターの視聴覚教材を大いに活用ください。

ご利用期間（5本まで・7日間）
〔宅配便は前後2日間ずつプラス〕

新着ビデオ等貸出中 〔平成16年度前期購入・寄贈ビデオ・DVD〕

新着のビデオやDVDを只今、貸出しております。主なものをご紹介します。

- 【教育・福祉】「運動大好き！体力が豊かな心を育む」「子どものしつけと父親の役割」
- 小学生の人権学習シリーズ『「人権」ってなんだろう』『私の権利、みんなの権利』
- 【教 養】アニメ古典文学館
- 「竹取物語」「枕草子」「平家物語」「おくのほそ道」
- 【産業・技術】「アグリンの農林水産ワールド」農村ってどんなところなの？」
- 【芸術・芸能】「手仕事 伝統の技と心」第1巻、第15巻 「大きなかぶ」「字のないはがき」
- 「バイリンガル世界の童話」第1巻、第12巻「白い町 ヒロシマ」(劇映画)
- 【体育・スポーツ】「レベルアップベースボール第1巻」
- 「投手編」第8巻「トレーニング・メディカルケア編」
- 【家庭生活・趣味】「見直そうあなたの生活習慣病」第1巻「一日を再点検」、第2巻「一週間を再点検」
- 【市民生活・国際理解】「青少年のボランティア活動のすそめ」主體的育ちを支える」
- 【学校教育】「たのしいさっぱい！郷土の音楽」「子どもが不登校になったときー対応ー」

第五回北海道映像メディアコンクール

作品募集中心！

北海道視聴覚教育振興協議会（事務局＝視聴覚センター）主催の同コンクールでは、十月一日（金）～平成十七年一月二十八日（金）までの募集期間で、道内のアマチュアの個人・団体（サークル・学校・教育機関等）の皆様に、「北海道の自然、歴史・文化や人物など」をテーマとした映像作品を募集しています。

ドラマ、ドキュメンタリー、学習教材などのジャンルでも応募できます。

詳しくは、生涯学習協会のホームページから視聴覚センターのところをご覧ください。



各賞は、次のとおりです。	
最優秀賞	1点（賞状・賞金 5万円）
優秀賞	2点（賞状・賞金 3万円）
選入	3点（賞状・副賞）
その他	特別賞・奨励賞 数点

昨年の最優秀賞作品
「石狩を愛した彫刻家本郷新」札幌藻岩高等学校放送局制作より石狩浜の「無辜の民」の像

生涯学習協会主催事業

「生きがいづくり生涯学習促進事業」の実施状況

今年度の「生きがいづくり生涯学習促進事業」は、全道十四管内のうち九月末までに、四管内で実施されました。

- 今後の予定は、
- 十月二十六日 赤井川村
 - 赤井川村生活改善センター
 - 十一月 九日 門別町
 - 門別町総合市民センター
 - 十一月 十日 追分町
 - 追分町公民館
 - 十一月十九日 端野町
 - 端野町公民館で開催します。



この事業は、道民カレッジの連携事業にも指定されていますので、多くの皆様方の参加をお待ちしております。

士幌町の生涯学習

平成十五年五月、町長から町民会議（諮問機関）に対して、「生涯学習の推進についての具体的な方策」について諮問され、平成十六年一月に生涯学習社会の望ましい推進体制として、次に挙げる機構を整備することが必要であるとの答申がなされ、今年度より新機構による生涯学習の推進に取り組んでいます。

ふれ愛ユニットピア推進本部

生涯学習を総合的に進めるための中心的組織で、基本的施策の確認、事業推進の総合調整を行います。

具体的には本部長が町長で役場職員全員が、学ぼうとする個人・家庭・団体・サークルの応援団になります。

行政が町民に何をやるかではなく、町民自ら何をやるかという自発的な学習に町職員が積極的に支援します。

学びの舞台は町民が演出、町民が主役、行政は裏方です。

生涯学習推進室

町民ニーズの調査研究と意識啓発、新企画の開発、専門委員への情報・資料の提供、指導者の体制づくりを行なうものです。

学習者から要望やアイデアを受け、学びたい気持ちを大切にします。推進室は町民の窓口になります。

生涯学習専門委員会及び部会

推進本部や推進室からの指示により、新規事業と継続事業に分類し、企画立案し運営指導と実践指導を行います。

よいプログラムは町民の皆さまが作ります。委員会を活用して、楽しい学びの場にするができます。

ふれ愛ユニットピア推進協議会

この組織は、教育に関わりの深い方や実際に学習している方にお願ひして、生涯学習のすすみぐあいや時期・場所・内容の選定等について学びたい人の意見を反映させるための協議会です。

実施について意見や評価を本部長に具申もします。

協議会は町民の協議する場です。

生涯学習事業

今年度の生涯学習重点事業として次の三事業に取り組むことを専門委員会及び本部会議で確認し推進しています。

一、ふれ愛ユニットピア出前講座

七月より町職員編三十二講座のメニューを準備し、曜日、時間を問わず対応しています。またメニューにない内容についてもできる限り対応することにしています。

二、生涯学習支援バンク登録制度

十月より制度の活用を開始します。

す。制度の設置にあたり各学校が求めている指導者のアンケートを実施し、それに対応する人材の発掘と登録を重点にしたりリストになっています。



三、第九回士幌町生涯学習講座

町の課題・関心事をテーマに課題解決にむけた方策をさぐる内容で実施しています。今年の内容は推進協議会の意見を聞き、専門委員会の中で、内容を協議し講座全体を作りあげるため、現在取り組んでいます。

（士幌町役場企画課）

生涯学習推進担当 寺田和也



新会員紹介

次の方々が新たに賛助会員になりました。今後ともよろしくおねがいたします。

・個人会員

- 中村 日出男（札幌市北区）
- 池田 真治（雄武町）
- 内宮 雄二（雄武町）
- 森澤 廣（雄武町）
- 竹田 浩二（雄武町）
- 高橋 恵（雄武町）
- 木村 晶雄（雄武町）
- 小林 浩路（雄武町）
- 横島 靖（雄武町）
- 三浦 健一（雄武町）

・団体会員

財団法人北海道埋蔵文化財センター（株ぎょうせい北海道支社）
（敬称は略させていただきます。）

編集後記

今年の夏は、例年がない記録的な猛暑が続きましたが、駒大苫小牧高校野球部の全国制覇やアテネオリンピックでの道産子選手のめざましい活躍など、道内スポーツ界に夢と希望を与えてくれた熱い夏でもありました。

一方、北海道を襲った台風は、多くの爪痕と道民の心に深い傷跡を残した夏でもありました。

今後とも、協会会員、関係者の皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝をご祈念申し上げます。